

シグマ研究委員会30周年記念行事  
第2回実行委員会会合議事録(案)

日時： 1992年9月29日(火) 13:30～16:00  
場所： 日本原子力研究所 東海研究所 研究2棟222号室  
出席者： 山野(住友原工)、井頭(東工大)、浅見(データ工学)、石井、  
小俣(沼田代理)、長谷川、中島、深堀(原研) (敬称略)

配布資料

- (1) 第1回組織委員会・第1回実行委員会会合議事録(案)
- (2) 組織・実行委員会及び招待者名簿

議事

1. 議事録確認

資料(1)により議事録の確認を行った。これに関連して、再度石井委員より主旨の確認を行った。

2. 主催者

東海研所長としたい旨、中島委員より報告があった。手続きに要する期間の確認を小俣委員にお願いした。

3. 記念講演会

記念講演会に関して次のような案を採択した。

- 1) 朝岡東海研所長(時間5分程度)  
開会の挨拶
- 2) 更田原研副理事長(時間15分程度)  
挨拶、シグマ委員会裏話
- 3) 三島元原子力学会長(時間40分程度)  
自主技術の重要性(JENDLと関連づけて)
- 4) 松延氏(住友原工)または村田氏(東芝)(時間15分程度)  
JENDLの使用経験
- 5) 中島法政大学教授(時間15分程度)  
まとめ

尚、講演内容の骨子はある程度実行または組織委員会で準備する事とし、事前の出演交渉及びスケジュールの確認を更田・朝岡両氏については物理部事務室で、他の方々については核データセンターで行う事とした。また、講演会の司会を菊池組織委員に依頼する事とした。

4. 開催時期及び場所

開催時期は原子力総合シンポジウムや原子力先端シンポジウム等と重複しないように、2月1～5日の間とし、講演者のスケジュールに合わせて決める事とした。また、講演会及びレセプション会場として、それぞれ富国生命ビル28階大会議室、プルニエ(富国生命ビル1階)としたい旨報告された。

## 5. 招待者

基本的に講演会・レセプションの区別をせずに、招待者数約120名とし、出欠の返事を頂く事とした。考え得る限りの名簿を作成し、この中から招待者を絞り込む事とした。考慮すべき組織は以下のようにする。

- ・官公庁、学会関係（30名程度）  
通産省、科学技術庁、原子力委員会、原子力安全委員会、原子力学会、物理学会、保健物理学会
- ・大学（30名程度）  
北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、大阪大学、京都大学、九州大学、東海大学、法政大学、武蔵工業大学、近畿大学、神戸商船大学、広島大学、新潟大学、徳島大学
- ・原子力関連企業（30名程度）  
主要原子力5社、電力9社及び原電・電源開発、JNFL、その他シグマ委員会関連会社（NEDAC、CRC総研等）
- ・シグマ委員会OB（10名程度）  
委員長及び部会長、歴代核データセンター室長、その他シグマ委員会発足に当たって功勞のあった方々
- ・研究機関（20名程度）  
原研、動燃、理研、船研、放医研、高エネ研等

## 6. 記念品

- ・核データセンターのパンフレット
- ・核図表
- ・テレフォンカード  
詳細についてNTTに問い合わせる（深堀委員）

## 7. ワーキングリスト

- ・肩書きの入った組織別の名簿を作成し、組織・実行委員に配布し（10／2まで）、コメントを集計する。
- ・講演者の都合を確認し、開催日を決定し、会場を確保する。（10／2まで）
- ・議事録を早めに作成し、組織委員会と見解の一致を図る。

次回会合： 10月16日（金） 東海研究所